PIANC
The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

Sailing Ahead

2026 年 10 月

2026 年もあと 2 ケ月となり，PIANC コミュニティ及び，より広範な海事･水上交通セクター全体にまたがる様々な活動が行われています！

10 月の最終週には，フランス･パリで PIANC の海港委員会(MarCom)及び執行委員会(ExCom)会合が開催され，委員が一堂に会し，進行中の活動，戦略的な優先事項，そして当協会の今後の方向性に関する議論を交わしました。

将来に目を向けると，今後の数ヶ月そして数年間は，有意義なイベントプログラムやネットワーキング形成ための場が企画されています。「PIANC Smart Rivers 2027」や「第 11 回 PIANC-COPEDEC」から，若手技術者委員会(YP-Com)主催の隔年実施のテクニカル･ビジット，間もなく開催の PIANC モロッコのウェビナーにいたるまで，知識の交換，経験の共有，そして私たちの国際的ネットワークを強化するための機会が数多く準備されています。また，私たちの姉妹団体である国際浚渫企業協会(IADC: International Association of Dredging Companies)や国際環境水理学会(IAHR: International Association for Hydro-Environment Engineering & Research) においても，皆さまにご注目していただきたい興味深いイベントが企画されています。

更に PIANC の技術的な活動へのより積極的な参画の機会もあります。環境委員会(EnviCom)の WG 274「持続可能な水上交通インフラにおける(浚渫土の)薄層覆土(敷設)の実践ガイド(A Practical Guide for Applying Thin Layer Placement Approaches for Sustainable Water Transport Infrastructure）」では，現在も新規メンバーを募集中です。この分野における実践的なガイダンスの策定に貢献することやご自身の専門知識の活用にご関心がある場合は，ぜひこの機会を活用してください。

本号では，各 WG の最新情報の共有，我々の業界へのこれら WG の継続的な貢献に焦点を当てるとともに，我々のコミュニティに有意義な知見や指針を与えてくれる今後発刊予定の PIANC 出版物についても紹介しています。

また，PIANC 自然との協働･共生賞(PIANC Working with Nature Award) 2028 の選考対象となる資格登録もまだ間に合います！ぜひ皆さまのプロジェクトをご応募ください！

本号をお楽しみいただき，今後のニュースや活動の中に多くのインスピレーションを見出していただくことを願っています。

今後の PIANC イベントにご参加ください！

AMIPM(PIANC モロッコ部会)と BUILDYN 社が「港湾構造物の点検･診断･評価」ウェビナーを開催

モロッコ港湾･海洋工学協会(AMIPM: The Moroccan Association of Port and Maritime Engineering, PIANC モロッコ部会)と，港湾･海洋構造物エンジニアリング及び評価を専門とする BUILDYN 社は，共催で「港湾構造物の点検･診断･評価: 劣化･損傷の観察から調査方法の選定まで」と題するウェビナーを実施します。

日時：2026 年 11 月 12 日 10:00AM（世界標準時）
参加費：無料
ウェビナー接続リンク：
https://teams.microsoft.com/meet/38102013025218573?p=u5EhymOhfOyXicx59S
Meeting number: 381 020 130 251 857 3
Code: z3X3AJ3z

本ウェビナーは，BUILDYN 社の創設者であり，港湾･海洋インフラ及び建築構造の分野で 25 年以上の実務経験を持つエンジニア Yann Gallois 氏がリードします。

ウェビナーの追加情報はこちら！

PIANC COPEDEC** XI インド･チェンナイ 2027 年 2 月 21 日 - 26 日



** COPEDEC: Conference on Coastal and Port Engineering in Developing Countries(開発途上国における海岸･港湾工学国際会議)



PIANC-Japan 事務局(注)
↑上の画像のクリックで COPEDEC XI のプロモーションビデオを視聴できます

会議ウェブサイトはこちら！

←**会議ハンドブック(第 2 報)はこちら！**

PIANC-Japan 事務局(注)
全体 160 編の発表のうち，日本から 8 編の発表予定(ハンドブック記載の会議発表プレゼン一覧より)

PIANC Smart Rivers 2027
インドネシア・パレンバン
2027年6月14日 - 18日



会議ウェブサイトはこちら！

論文募集・最終案内,会議の最新フライヤーはこちら！

○募集最終案内と最新フライヤーの仮訳9頁～11頁参照

PIANC-Japan 事務局(注)

○**論文アブストラクト(1ページ)募集中**！
（2026年12月1日,アブストラクト〆切）
アブストラクト提出についてはこちら↓
https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts

アブストラクト・テンプレートはこちら↓
https://smartrivers2027indonesia.com/template-abstract/

PIANC YP-COM BIENNIAL TECHNICAL VISIT(BTV)**
スペイン・バルセロナ
2027年6月30日 – 7月2日

** PIANC若手技術者委員会(YP-Com)が概ね隔年で世界各地にて開催



詳細情報(フライヤー)はこちら！

PIANC WwN賞2028への応募はこちら

PIANC WWN賞(自然との協働・共生賞) 2028
(PIANC WORKING WITH NATURE AWARD 2028)



※PIANC-Japan 事務局(注)　参考資料以下のとおり
応募等に関連する本部ウェブサイト(一部)の「仮訳」12頁参照

応募のメリット

- ✅ 水上交通インフラにおける革新的かつエコフレンドリーな応募者のアプローチへの国際的な評価の獲得
- ✅ 応募者の持続可能な取組みのアピールにつながる
- ✅ 応募プロジェクトを先例とする他プロジェクトの範となる

応募プロジェクトが認定証(Certificate of Recognition)を獲得している場合は，2028年PIANC世界航路会議(PIANC World Congress)において，本賞の候補となります。

🙋‍♂️🙋‍♀️ **応募資格**

自然との共生･協働(WwN: Working with Nature)の理念を具現化する水上交通インフラ･プロジェクトであれば，完了／継続案件にかかわらず応募の資格があります

🔗**応募方法**

過去の受賞プロジェクトに関する情報の確認，及びプロジェクトの応募申請(提出)については，PIANC Web サイトをご参照ください。

PIANC 委員会(Com)からのニュース

PIANC 執行委員会(ExCom),海港委員会(MarCom)が 10 月会合のため仏･パリに参集

PIANC フランス部会のご協力により，10 月 27 日から 30 日にかけ，パリの美しい街並みの中のフランス港湾連合(Union des Ports de France)のビルにて，本部執行委員会(ExCom)及び海港委員会(MarCom)の委員メンバーが温かく迎えられました。



↑グループ写真：左から 4 人目が栗山 PIANC 副会長

会合の合間には，HAROPA PORT(港湾公社)による Gennevilliers 港への有意義な視察ツアーが開催された他，PIANC 本部によるパリでのエクスカーション･交流イベントも企画されました。フランスに参集された皆さまに心より感謝申し上げます。

北部欧州技術視察 2026：コペンハーゲンからハンブルクへ
-PIANC YP(若手技術者委員会)と Jung HTG(独港湾技術協会･若手技術者)共同ツアー



2026 年 10 月 7 日から 9 日にかけ，ドイツ，ベルギー，イギリス，オランダ，デンマーク，スウェーデン，ノルウェー，アイスランドから参集した若手技術者(YP)約 50 名は「専門知識を原動力に，水で結ばれる」のスローガンのもと，北欧の技術視察ツアーを実施しました。

←*グループ写真(ハンブルク市内)*

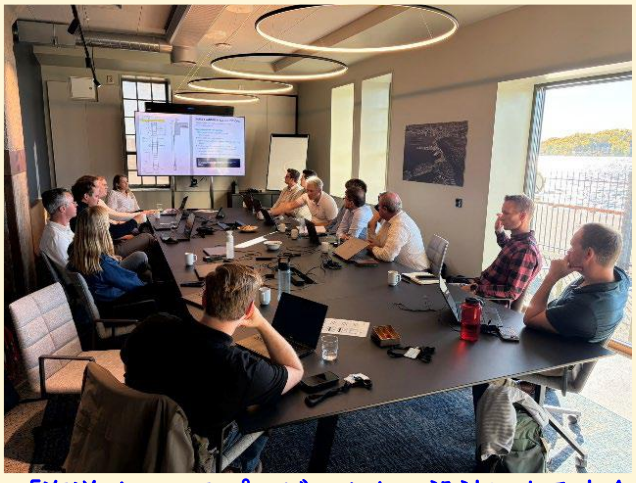
本イベントは，PIANC 若手技術者委員会(YP)と Junge HTG(独港湾技術協会(HTG: German Port Technology Association)若手技術者部会）の共同で企画されたものです。

参加メンバーは 3 日間にわたり,ハンブルクからコペンハーゲンを往復，この地域で最も注目されている 3 つの水上交通インフラプロジェクトを視察しました。

補足記事はこちら！

*上記の捕捉記事の仮訳 13 頁～15 頁参照

PIANC WG からのニュース



PIANC WG 252　「海洋インフラプロジェクトの設計による安全性(Safety by Design of Maritime Terminals and Infrastructure Projects)」がノルウェー･オスロにて会合を開催

*上記の捕捉記事の仮訳 16 頁参照

PIANC コミュニティからのニュース

各国部会,各国支部からの実施済または今後予定される活動を共有するニュース

PIANC アルゼンチン部会からのニュース

●第 14 回アルゼンチン港湾工学会議

*上記の捕捉記事の仮訳 17 頁参照

PIANC 英国部会からのニュース

●PIANC 英国部会のサウサンプトン港視察

*上記の捕捉記事の仮訳 18 頁参照

出版物

発刊中

以下の報告書は 2026 年 9 月に発刊されています

※本部プレスリリースのダウンロードは,下記の報告書の表紙をクリックしてください。

● PIANC WG 171(海港委): 航路・港湾の計画・設計のための船舶航行シミュレーション
(Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design)



WG 171 報告書の刊行時の本部プレスリリースの仮訳は 19 頁参照

発刊予定

以下の報告書は，2026 年 11 月に発刊予定です。

●PIANC **WG 243**(海港委)：**コンテナターミナル舗装の持続可能性 -設計から供用終了まで**
(Sustainability of Container Terminal Pavements – From Design to End-of-Life)

PIANC WG メンバーの応募受付中



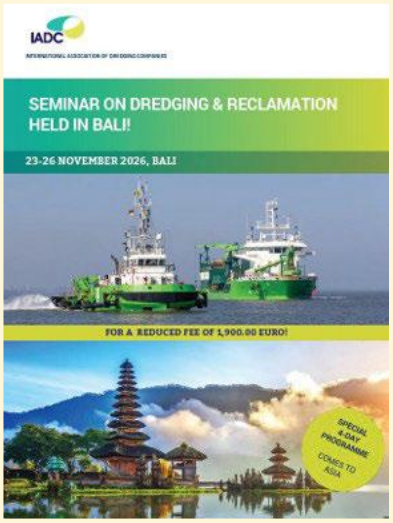
PIANC WG 274「持続可能な水上交通インフラにおける(浚渫土の)薄層覆土(敷設)の実践ガイド(A Practical Guide for Applying Thin Layer Placement Approaches for Sustainable Water Transport Infrastructure)」では，追加の委員メンバーを現在も募集中です。

ご関心のある方は，所属する各国部会へご連絡ください。国内部会が未設置の国では，PIANC 本部(info@pianc.org)に直接コンタクトしてください。

姉妹団体からのニュース



●第 42 回 IAHR(国際環境水理学会)世界大会 2027：イタリア･バーリへの道-科学，当局，解決策の融合



●IADC(国際浚渫企業協会)浚渫･埋立セミナーをインドネシア･バリ島で開催

PIANC プラチナパートナーからのニュース

SFT 社(ShibataFenderTeam)，北部欧州技術視察 2026 イベントに貢献



PIANC と独港湾技術協会(HGT)の若手技術者(YP)が共催した表題イベントが 10 月初旬に 3 日間にわたり開催され，様々な国から約 50 名の YP が集結しました。海上分野における技術視察，知識交換及びネットワーキングを目的に実施されました。

SFT 社から Lisanne Scheuch 氏(Junior Sales Manager)とスカンジナビア諸国における SFT 社の代理店･代表を務める Markus Bleher 氏が参加し，コペンハーゲンの Lynetteholm 埋立事業，Fehmarnbelt 海底トンネル建設現場の視察に同行し，これらの大規模インフラ開発に伴う技術的課題や建設プロセスについての深い知見を得る貴重な機会となりました。

最終日は，ハンブルクにて SFT 社の北欧地域の営業トップである Lukas Kaste 氏もイベント合流し，ハンブルク港湾局(HPA)において， Lisanne 氏とともに SFT 社の紹介，製品ポートフォリオや厳選プロジェクトについてのプレゼンを実施しました。本イベントはハンブルク港の船上ツアーにより終了しました。

長年にわたる PIANC 会員として，SFT 社は，知識の交換･共有の促進，専門家のつながり強化，次世代の海上インフラ専門家を支援する今回のような取り組みに貢献できる機会を非常に重要視しています。

Angels Blasco
Junior Marketing Manager, SFT

以下は PIANC のプラチナパートナーです：

ソーシャルメディアで PIANC をフォローしてください：

ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は こちらから

PIANC 公式サイト：https://www.pianc.org/
PIANC 会員になるには（右記,日本部会へご連絡を） info@pianc-jp.org
https://www.pianc.org/join-pianc/

本フライヤーの英語版のリンク先はこちら!

PIANC Smart Rivers 2027 フライヤー



論文募集中

↓アブスト提出先
https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts

SMART RIVERS 2027

世界の航行可能な川を讃えて

本会議の概要

Sriwijaya 王国時代から海上交易で栄え,歴史的な中心地であるパレンバンにて,2027 年 6 月,PIANC Smart Rivers 会議を開催する運びとなりました。この権威ある国際会議には,30 カ国以上から河川等の各分野の工学専門家,政策立案者,港湾管理当局,関係業界リーダー,学識経験者,コミュニティ関係者が一堂に会します。会期中は,熱帯地域の河川等の管理や都市河川の再生,加えて在来型物流と最先端のスマート運営技術の融合等の重要課題について議論を交します。

会議日程
2027 年 6 月 14 日−6 月 18 日
インドネシア南スマトラ州パレンバン市

2027 年 6 月 14 日
人材育成ワークショップ
-南アジアにおける内陸水路の管理運営

主要な締切等の期日

●2026 年 5 月 20 日	論文アブストラクト募集開始
●2026 年 12 月 1 日	参加登録(早期割引)受付開始
●2026 年 12 月 1 日	**論文アブストラクト提出締切**
●2027 年 1 月 29 日	論文アブストラクト受理通知
●2027 年 2 月 1 日	参加登録（早期割引）締切
●2027 年 3 月 19 日	論文提出締切
●2027 年 4 月 29 日	参加登録締切
●2027 年 6 月 14 日	Smart Rivers 2027 開催

Submission Link ↓アブストラクト提出リンク
https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts
Submit your abstract and be part of the global discussion for sustainable and resilient rivers.



本会議のテーマ(1/2)

Waterway Infrastructure（水路等インフラ）
- Navigation Improvements（港湾･水路の改良）
- Navigation Structures（港湾･水路構造物）
- Ports, Harbors, Multimodal・Terminals（港湾,複合一貫輸送ターミナル）
- Infrastructure Assessments & Monitoring（インフラの(健全度等)評価及びモニタリング）
- Innovative Materials（革新的な材料）
- Natural & Nature-based Infrastructure（自然及び自然を活用したインフラ）

Smart Shipping & Waterways（スマート水運と水路）
- E-navigation, River Information Services（電子航行, 河川情報サービス）
- Autonomous / Automated Sailing and Smart Vessels（自律/自動運航とスマート船舶）
- Digital Twins, Virtual & Augmented Reality, & Artificial Intelligence（デジタルツイン, 仮想現実･拡張現実と AI）

Climate Change & Community（気候変動とコミュニティ）
- Navigation Improvements（港湾･水路の改良）
- Navigation Structures（港湾･水路構造物）
- Ports, Harbors, Multimodal・Terminals（港湾,複合一貫輸送ターミナル）
- Infrastructure Assessments & Monitoring（インフラの(健全度等)評価及びモニタリング）
- Innovative Materials（革新的な材料）
- Natural & Nature-based Infrastructure（自然及び自然を活用したインフラ）

本フライヤーの英語版のリンク先はこちら!

本会議のテーマ(2/2)

Logistics (ロジスティクス)

- Riverine Ports (河川港)
- Multi-Modal Transport (複合一貫輸送)
- Intermodal Transport: Containerization of Inland Waterways (インターモーダル輸送: 内陸水運のコンテナ化)
- --Innovations, Containers on Barge (イノベーション, コンテナ・バージ輸送)

Rivers & River System Management (河川,水系管理)

- Asset Management (アセットマネジメント)
- Dredging, Beneficial Use, and Regional Sediment Management (浚渫,(浚渫土)有効活用, 域内堆積土の管理)
- Multi-use Waterways (水路の多目的利用)
- Safety and Security (安全とセキュリティ)
- Resilient Rivers and Waterways (強靭な河川・水路)
- Ecologic Restoration (生態系の再生)
- River Recreation and Fisheries (河川レクリエーションと漁業)
- Basin Scale Modelling and Predictions (流域規模のモデル化と予測)

Additional IW (Inland Waterway) Topics (追加の内陸水路トピックス)

- Public-Private Partnership (官民連携(PPP))
- Waterways and National Security (水路と安全保障)
- Economic Modelling and Co-benefits (経済モデルと共通便益)
- Finance, Investment, and Trade (資金調達, 投資, (ビジネス)市場展開)
- Institutional and Regulatory Perspective (制度面・規制面からの視点)
- PIANC WGs (in Relation with Conference Topics) (PIANC の WG(本会議のテーマ・トピックスの関連 WG))



主催機関及びパートナー機関



本フライヤーの英語版のリンク先はこちら!

SMART RIVERS 2027 – 会議プログラム

於 パレンバン, 2027 年 6 月 14 日-18 日 会議会場: Novotel Hotel

2027年6月14日（月）	2027年6月15日（火）	2027年6月16日（水）	2027年6月17日（木）	2027年6月18日（金）	2027年6月19日（土）
人材育成ワークショップ -南アジアの内陸水路の管理運営 目的: 強靭で信頼性が高く持続可能な内陸水路の管理とｲﾝﾌﾗ投資計画のためのﾍﾞｽﾄﾌﾟﾗｸﾃｨｽ, 教訓や提言及び指針に係る PIANC・MRC・ESCAP 間の今後の協力形成	**開会式** 08:30-10:00 **全体ｾｯｼｮﾝ I** -熱帯河川の特性- 10:30-12:00 **ｾｯｼｮﾝ Ia** 13:30-15:00 **ｾｯｼｮﾝ Ib** 16:00-17:30 **夜の部** カジュアル交流会	**ｾｯｼｮﾝ 2a** 08:30-10:00 4 会場並行 **ｾｯｼｮﾝ 2b** 10:30-12:00 4 会場並行 **ｾｯｼｮﾝ 3a/3b** 13:30-17:30 4 会場並行 **夜の部** ｶﾞﾗﾃﾞｨﾅｰ	**基調講演** (ESCAP, InCom) 08:30-09:30 **ｾｯｼｮﾝ 4a** 10:00-12:00 4 会場並行 **ｾｯｼｮﾝ 4b** 13:30-15:00 **閉会式**, 次回開催地引継 **夜の部** YP ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ等	**技術ツアー** 追加費用 50 米ドル A **港湾運営** Boom Baru 港, Tanjung Carat 新港計画等 B **河川航行** Musi 川の安全, Ilir ﾀｰﾐﾅﾙ地区改修等 C **背後圏物流** Banyuasin/ Manana Bahagia 造船所等	**閉会後文化体験ツアー** ・Ampera 橋梁 ・Kemaro 島 ・Songket 織物ｾﾝﾀｰ ・Pempek 料理・食文化体験 ・パレンバン市内観光

詳細情報 こちら 会議ウェブ: https://smartrivers2027indonesia.com
email: secretarit@smartrivers2027indonesia.com



参加登録料

早期割引登録は 2027 年 2 月 28 日締切！

参加登録料（米ドル）	PIANC 非会員（米ドル／人）	早期割引 PIANC 非会員（米ドル／人）	PIANC 会員（米ドル／人）	早期割引 PIANC 会員（米ドル／人）
海外(インドネシア国外)参加	950	900	800	760
ASEAN からの参加	500	475	400	380
インドネシア国内参加	200	190	80	70
学生(インドネシア国内)	50	50	50	50
学生(インドネシア国外)	150	150	100	100

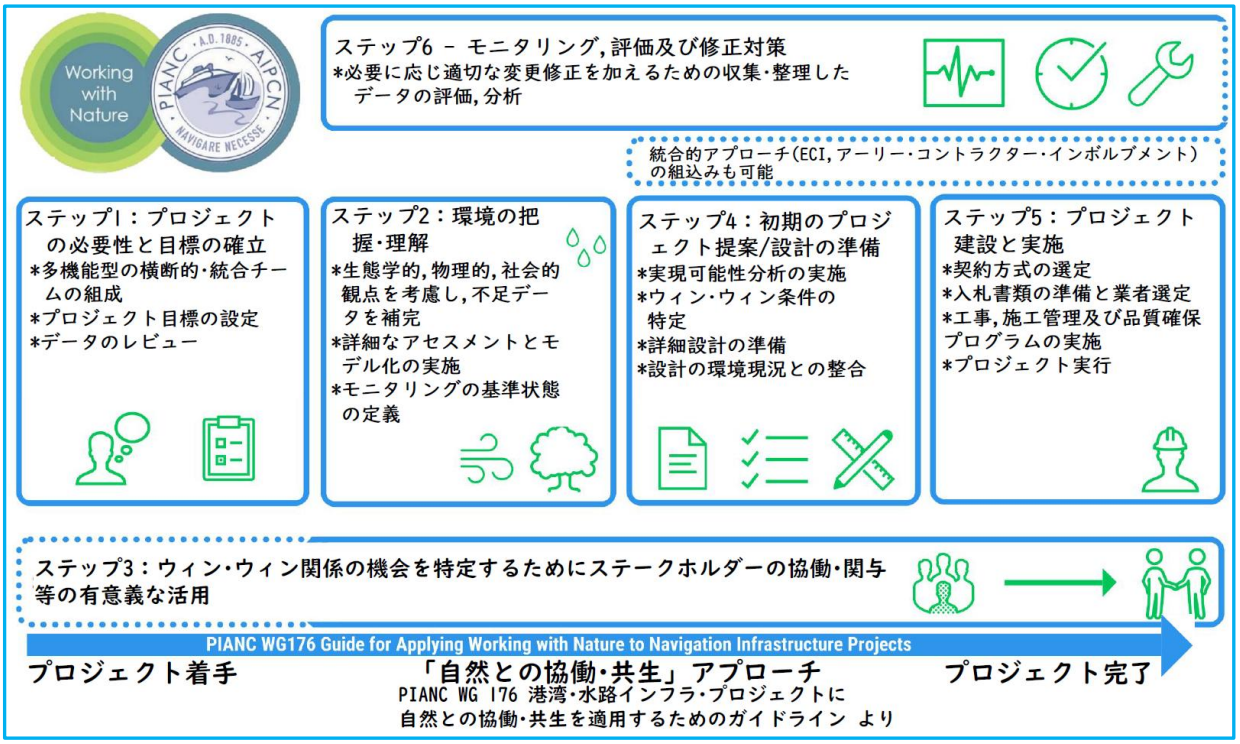
PIANC 自然との協働・共生賞（Working with Nature（WnN）Award）

「自然との協働・共生」は，持続可能な港湾・水路インフラプロジェクトにおける積極的かつ統合的アプローチを推進するPIANC の国際的イニシアティブです。2008 年以降，世界中で「自然との協働・共生」の理念を採り入れた数多くの港湾・水路インフラプロジェクトの開発がされてきました。PIANC はこうしたプロジェクトを表彰，認定証を授与することでその取組みを称えたいと考えています。

WwN のフレームワーク（PIANC WG176 報告書第 4 章（無償・公開部分）より抜粋）

WwN では，港湾・水路の開発．拡張，成長に係るプロジェクト目標の達成のため，設計段階にてサイト固有の生態系特性の考慮を推奨しています。理想的には，**WwN** では設計着手前からのプロジェクト目標の策定への組込みを含んだ完全統合されたアプローチを必要とします。**WwN** はプロジェクトのほぼ全段階において実施可能ですが，構想・設計・実施の初期段階にて導入することが環境に好影響をもたらす機会として有望です。設計プロセスの後期段階での **WwN** の概念の導入はより大きな労力を必要とし，プロジェクト着手時ほどの効果は期待できない場合があります。

2011 年の PIANC ポジションペーパーで確立したアプローチと，WG 報告書によりプロジェクトのライフサイクルは，下図のステップで構成されます。



自然との協働・共生賞（2019-2024 期間）受賞者（PIANC 本部ウェブサイト発表資料より抜粋）

1 位：浚渫土の有効活用と生態系ツールによる生息地の回復（Recovery of Habitats Beneficial Use of Dredged Materials and Bio-tools），Huelva 港湾管理者，スペイン

2 位：ハンコック郡・干潟生息域海岸とパール川維持浚渫（Hancock County Marsh Living Shoreline and Pearl River Maintenance Dredging），Anchor QEA Inc.社，米国

3 位：マデイラ川航行改善計画調査（Madeira River Navigation Improvement Planning Study），米国陸軍工兵隊・ブラジル

北部欧州技術視察 2026：コペンハーゲンからハンブルクへ

-PIANC YP(若手技術者委員会)と Jung HTG(独港湾技術協会･若手技術者)共同ツアー

2026 年 10 月 7 日から 9 日にかけ，ドイツ，ベルギー，イギリス，オランダ，デンマーク，スウェーデン，ノルウェー，アイスランドから参集した若手技術者(YP)約 50 名は「専門知識を原動力に，水で結ばれる」のスローガンのもと，北欧の技術視察ツアーを実施した。

本イベントは，PIANC 若手技術者委員会(YP)と Junge HTG(独港湾技術協会(HTG: German Port Technology Association)若手技術者部会）の共同で企画されたもの。

Northern Europe Study Trip 2026

Driven by Expertise - United by Water

参加メンバーは 3 日間にわたり,ハンブルクからコペンハーゲンを往復，この地域で最も注目されている 3 つの水上交通インフラプロジェクトの視察を行った。

1 日目 - コペンハーゲン：Lynetteholm(リネットホルム)

視察初日は，スカンジナビア半島の最大級の海上建設プロジェクトの一つである Lynetteholm を訪問。同プロジェクトの概要説明は，CopenHill(屋上に緑地公園･人工スキー場等を併設する最先端のゴミ焼却発電プラント)屋上で実施された（あいにくの曇り空であったが）。

Lynetteholm プロジェクトでは，市内各地の建設発生土砂を活用し，コペンハーゲン港の港口部エリアに 275 ha の新しい人工半島を埋立造成中である。By & Havn(City & Port)都市･港湾開発公社により，気候変動への適応，インフラ整備，余剰土砂の管理，都市開発という 4 つの課題の解決を目指しているプロジェクトである。外周(護岸)延長は約 7ｋｍに及び，2070 年頃までに約 5 万人の居住者と 3 万人の雇用者の受け皿となる新たな地区となる予定である。

天候にもかかわらず，参加者は外周沿いの船上視察を実施し，海上からも工事状況を間近に視察した。夜はコペンハーゲンで夕食･懇親会を開催した。



↑曇天の中 Copenhill 屋上から Lynetteholm を望むツアー参加者



↑グループ写真（船上視察終了後）

2 日目 – Fehmarnbelt トンネル

2 日目は早朝からの Fehmarnbelt トンネルの建設現場の視察であった。参加者はプレハブ部材等の製作および施工工程に係る詳細説明を受け，トンネル各エレメントを両端で保持し，ミリメートル単位の精度で海底へ設置する沈設用ポンツーン「IVY 1」と「IVY 2」を間近で見学できた。今回の視察の時点では，最初のトンネル･エレメントは既に海底に設置されていた。

同トンネルはデンマーク側の Rødbyhavn とドイツ側の Fehmarn 島を結ぶ全長 18 ｋｍの世界最長の沈埋トンネル･プロジェクトである。本事業には，トンネル本体だけでなく，標準エレメント 79 基と特殊エレメント 10 基を製作する世界最大規模のトンネル･エレメント工場も含むもの。

本工事には約 36 万トンの鉄筋と 320 万立方メートルのコンクリートが使用される。また，デンマーク側には水深 10.3m の専用の作業港湾を整備し，毎週最大 8 万トンの資材搬入が行わる。

完成後は現在 45 分を要しているフェリーによる横断通航に代わって，自動車で 10 分，列車で 7 分での通行が可能になる。

視察の最後に Femern A/S 社によるプレゼンテーションが行われた。ツアー参加者は，本プロジェクトの巨大な規模に感銘を受け，フェリーでドイツ側に戻りながら，将来は本トンネルが取って代わることを思い起こされた。夜は，Rambøll 社ハンブルク事務所による夕食会とネットワーキングイベントが開催された。



↑Fehmarnbelt トンネル建設現場におけるツアー参加者



↑Rødbyhavn 専用作業港湾及びトンネル･エレメント工場を含む建設現場の全景（写真提供：Femern A/S 社）



↑沈設作業用ポンツーン「IVY 1」「IVY 2」（写真提供：Femern A/S 社）

3 日目 – ハンブルク：港湾局と港内視察

金曜日の午前中は，ハンブルク港湾局(HPA)より，水域･陸域インフラの維持管理，安全な航行の確保，臨港鉄道の運営および改良などを含む幅広い業務とその実施状況に係る説明があった。ハンブルク港はエルベ川の約 130 km 上流に位置し，ドイツ最大の海港であるとともに欧州最大の鉄道港湾でもある。最後の港内の船上ツアーは，こうした説明の実地での確認とともに，ツアー参加者全員が 3 日間の充実した交流と学びの振り返りの機会となった。



↑PIANC YP(若手技術者委員会)と Jung HTG(独港湾技術協会･若手技術者)共催の北部欧州技術視察 2026 最終日の*グループ写真(ハンブルク市 HafenCity 地区)*

謝辞

「専門知識を原動力に，水で結ばれる」のスローガンが示すとおり，水上･港湾･海洋インフラ･プロジェクトへの強い関心によってつながった欧州各国の若手技術者が集結しました。参加者全員は，仕事からプライベートに至るまでの数多くの対話，志を同じくする仲間たちとの新たなネットワーキング形成，そして欧州コミュニティとしての連帯感の深化を果たしました。

今回のツアー開催にあたり，By & Havn 都市･港湾開発公社，Sund & Bælt 国営会社，Femern A/S 社，Ramboll 社並びにハンブルク港湾局に心より感謝いたします。また，PIANC と HTG の支援と，私たちのスポンサーである COWI 社，MSB Industries 社，Per Aarsleff A/S 社，Fichtner 社，Ramboll 社，ShibataFenderTeam 社の各社にも謝意を表します。最後に，本ツアーを成功へ導いた参加者全員に深く感謝いたします。

Babje Rothe
PIANC 若手技術者委(YP-Com)

PIANC WG 252「海洋インフラプロジェクトの設計による安全性(Safety by Design of Maritime Terminals and Infrastructure Projects)」ノルウェー・オスロにて会合開催

WG 252 の委員メンバーは，10 月初旬にノルウェー・オスロに集まり、3 回目となる対面会合開催しました。

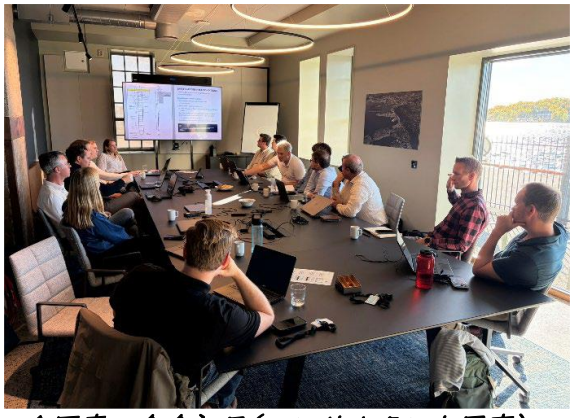
(本 WG により作成する)報告書は，全ての地域において適用可能となる「統合的な設計による安全性」の枠組みを備え，港湾分野を中心とする設計マネジメントのベストプラクティスを提示することを目的としています。今回会合の 3 日間のプログラムとしては，以下の内容を含んでいます。

- （成果物となる）ガイドラインに何を期待しているのかを把握するための地元エンジニアリングコンサルタントや施工業者とのワークショップ。
- 報告書ドラフト初稿のレビュー（これまで個別にドラフトしてきた各章節を初めてとりまとめ統合したもの）。
- 新規岸壁の建設現場の視察。

統合版ドラフトレビューは，重複箇所，報告書全体のフロー，更なる作業において対応すべき不足点や改善・強化点などの特定の上で，有意義なステップとなりました。ドラフト完成と，海港委員会(MarCom)への提出前に実施する選定査読者によるピアレビューへの送付を 2027?年 4 月の目標としています。

WG 業務の合間にオスロでの素晴らしい食事や街並み・建築も堪能できました。オペラハウス前面の海で寒い朝の水泳に挑んだ委員メンバーもいました。

オスロ港湾当局(Oslo Havn)には会合中の業務スペースをご提供いただいたこと，PIANC ノルウェー及び地元の建設会社 Repstad Anlegg 社からのご支援や建設現場へのご案内などに対して，ここに感謝申し上げます。



↑写真：会合初日(コンサルタント同席)



↑写真：会合 3 日目

Aidan Lewis
WG 252 議長

第 14 回アルゼンチン港湾工学会議

2026 年 9 月 8 日から 11 日にかけ，アルゼンチン港湾工学協会(AADIP)と PIANC アルゼンチン部会の主催により，第 14 回アルゼンチン港湾工学会議が開催されました。従来 AADIP による隔年開催の本会議は，今回はブエノスアイレスのアルゼンチン技術者センター(Centro Argentino de Ingenieros)を会場にして，4 日間にわたり実施されました。

会場では 150 名を超える対面出席者があり，AADIP の YouTube チャンネル経由でも多くの方々がオンライン参加しました。プログラムでは，国内外の港湾･水路分野の専門家による幅広い発表が行われ，最後は親睦を深める昼食会で締めくくられました。

今回の会議に併せ，会期中の 3 日間の午後は，オランダ･デルフト工科大学(TU Delft: Delft University of Technology)とブエノスアイレス大学大学院･港湾工学科(EGIP: Escuela de Graduados en Ingeniería Portuaria)による「港湾･水路のための適用シミュレーションコース」が開催されました。本コースの講師はデルフト工科大学の Mark van Koningsveld 博士と Floor Bakker 博士が務め，同大学が開発したオープンソースツールを活用した内陸水路･港湾輸送システムのモデリングやシミュレーションが取り上げられ，これらの分野の実務者や学生が多数参加しました。

また、技術セッションの一つとして，PIANC アルゼンチン会員の WG 参加の促進を目的として，様々な PIANC WG で活動するアルゼンチン専門家による経験紹介がなされました。

閉会式では，アルゼンチン工学アカデミー名誉会長 Oscar Vardé 氏より，René Herrero Ducloux 氏に若手技術者最優秀論文賞が授与されました。受賞論文タイトルは「数値モデリングによるパラナ川大ロサリオ圏区間の水理的な河道変動特性の評価(Hydro-Morphodynamic Characterisation of the Paraná River in the Greater Rosario Reach Through Numerical Modelling)」です。受賞特典として，同氏に 2027 年 6～7 月に開催予定の PIANC 若手技術者の隔年技術視察(YP-BTV)参加の費用の支援が AADIP から提供されます。

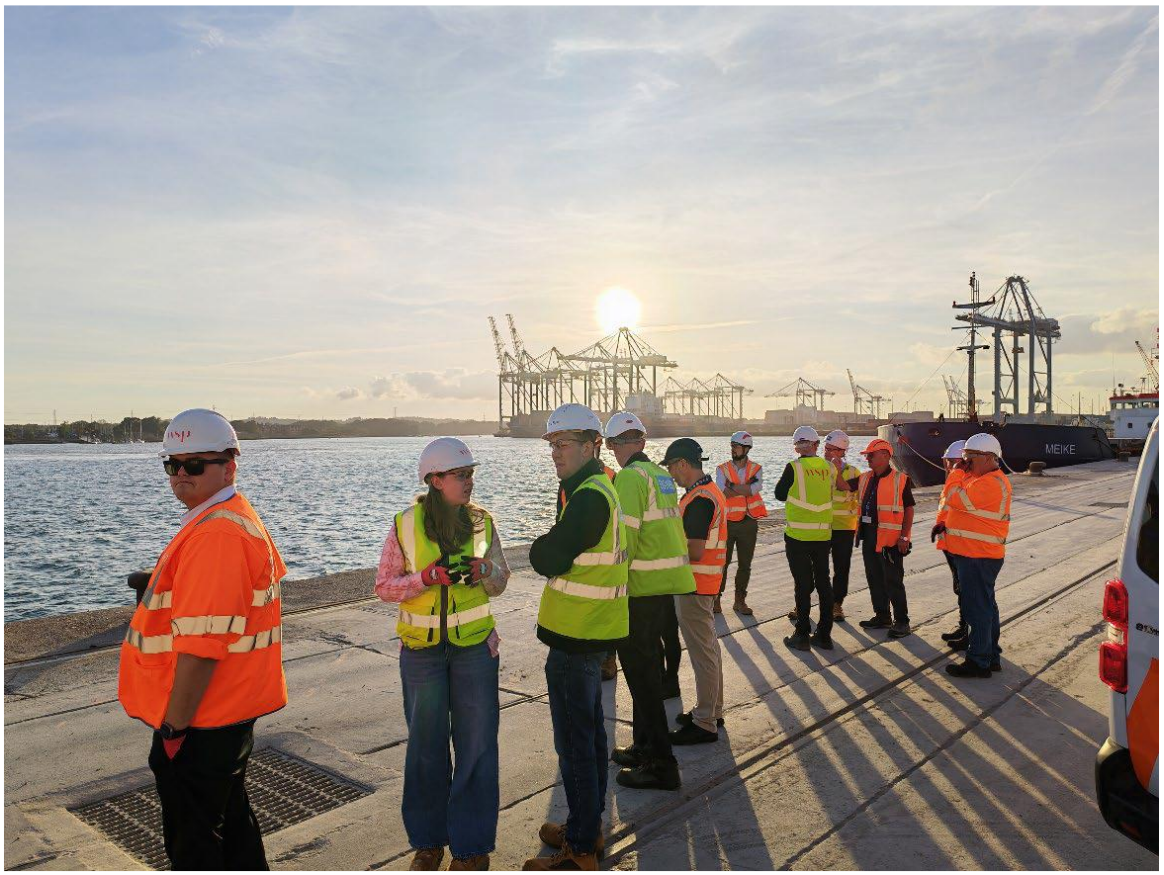


Juan Cruz Andrini
PIANCアルゼンチン

PIANC 英国部会のサウサンプトン港視察

PIANC 英国部会メンバーによるサウサンプトン港の視察は，多くの参加者の下，成功裡に終了しました。サウサンプトン港は，イギリス経済に毎年 25 億ポンド(約 5,200 億円)の経済効果をもたらし，400 億ポンド(約 8.4 兆円)相当の輸出貨物の取扱港湾です。

参加者は，歴史的なドライドックのポンプステーション(pump house)や関連インフラを見学し，同港の歴史に関する興味深い知見を得ました。また，今回の視察では，豪華客船「RMS タイタニック号」の処女航海の出港時の施設，当時の姿をほぼ残している岸壁の視察も含まれていました。



同港の近代的なオペレーションに関する詳細な議論も実施され，港湾運営会社である ABP(Associated British Ports)から，港内に立地する BMW 社の納車前検査施設(PDI: pre-delivery inspection facilities)を含む同港の「自動車輸出入における重要な役割」の説明がありました。加えて，視察参加者は，現時点で欧州にて稼働中のものとしては最大級の新型コンテナクレーンやセメントの輸入施設についても視察しました。

今回の視察が非常に好評であったことは，海事セクター内外を問わずに多くのエンジニアの間で港湾とその運用に対する極めて高い関心があることを証明しています。

Nigel Bodell
PIANC英国部会

プレスリリース
2026 年 9 月 2 日



航路･港湾の計画･設計のための船舶航行シミュレーション

(Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design)

海港委員会（MarCom）WG 171
価格：非会員 258 ユーロ／会員 無料（204 頁）

https://www.pianc.org/publication/ship-handling-simulation-dedicated-to-channel-and-harbour-design/

船舶航行シミュレーションは，既設の水路やアプローチ航路における航行性／交通容量の評価･確認，及び水路・アプローチ航路の計画段階における設計評価のための手法として，既に十分に確立されているもので，幅広く実務に用いられています。1992 年に，PIANC の WG 21 により本テーマに関する報告書が公表されています。その後，30 年が経過したことも踏まえて，当時のレポートの更新，内容を補足することは有意義であると判断されました。少なくとも，この間に顕著な発展を遂げた技術開発を考慮する必要性だけではなく，船舶航行シミュレーションの適用対象となる新たなアプローチや取り組むべき対象課題の変化もあったためでもあります。

この WG 本報告書には，二つの面からの有用性があります：一つ目は，計画･設計面からの評価･確認のための船舶航行シミュレーション検討を実施する際の最新手法に関する参考資料としての役割です。ここには安全面からの証明及び通航面からの航行容易性の確認も含まれます。二つ目は，水路の確認業務に携わる専門家であるが，船舶航行シミュレーションに関する経験が少ない，又は経験が皆無の専門家の方々向けの入門的な手引書としての役割です。

そのため，本 WG 報告書は，水路･航路の調査･検査のために船舶航行シミュレーションの準備から実行していく際の確立済の作業手順に則り，段階的に構成されています。各段階について明確かつ詳細な説明の記述及び，ベストプラクティスに基づいた十分な証明がある指針も追加されています。

執筆者グループは，本 WG 報告書が読者にとり有益なものとなること，少なくとも今後 10 年間にわたり，水路，アプローチ航路および港湾の計画･設計における船舶航行シミュレーションの活用に関する参考資料として役立つことを期待しています。